

海面を滑走するアメンボの記録

Records of a fresh-water water strider *Aquarius paludum*
(Hemiptera, Gerridae) that glides on sea surface.

久保田 信

(京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

通常は池や沼などの淡水面を滑走するアメンボが、和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸漁港の最奥部の船揚場付近の水深数m以内の海表面を、過去5年間に1個体あるいは対になって滑走しているのを報告した(久保田, 2000, 2001)。今回報告する最も注目される目撃は、海面を集団で滑走していた例で、同地点でのこれまでの例と異なっていた。この特例に加えて、前報以降のここでの目撃例のすべてを一括して報告する(表1)。ただし2002年と2003年にはどの時期にも、定期的に観察している(通常毎日の午前中、瀬戸漁港)にもかかわらずアメンボの滑走に遭遇しなかった。

(1) 集団での海面滑走を目撃した初例

2004年3月29日午前9時45分に多数のアメンボが瀬戸漁港の船揚場付近で滑走していた。3ヶ所で見られ、それぞれの集団は同じ大きさの個体が14、6、2個体見られた。

写真撮影のために研究室へカメラを取りに行き、10時30分に再び観察を開始したところ、それぞれの集団は縮小し、わずか1、2、1個体になっていた(図1)。この時には風が吹き水面は波立っていた。

続く17時30分の観察時には、アメンボの姿は見られなくなっていた。

この日の前後も(2004年4月30日まで)、ほぼ毎日、最低1回は瀬戸漁港に生物観察に訪れていたが、今回のようなアメンボの集団の出現はなかった。

今回同時に見られた合計22個体のアメンボが、波浪や風で瀬戸漁港に一時的に吹き寄せられ集まったものとは色々な状況からは考えにくい。この時期がアメンボの繁殖期に入っているとはいえ、繁殖行動のための集合でもないだろう。集団で飛翔していたアメンボたち自身が、なんらかの理由で、たまたま同時に同じ場所に自ら着水した結果なのであろう。



図1 海面を滑走するアメンボ

表1 瀬戸漁港の最奥部の海面を滑走するアメンボ

個体数	目撃年月日	引用文献
2	2000年4月10日	久保田, 2000
1	2000年6月15日	本報告
1	2000年6月30日	本報告
2	2001年3月22日	久保田, 2001
1	2001年3月22日	本報告
2	2001年4月8日	本報告
1	2001年10月11日	本報告
22	2004年3月29日	本報告

(2) 一対で海面を滑走の例

これまで2000年と2001年の春季に一度ずつ目撃した例を報告したが(久保田, 2000, 2001)、2001年の4月にも一度だけ一対での滑走があった(表1)。

(3) 単独で海面を滑走の例

2000年の夏季に2回、2001年の春と秋に一回ずつ目撃した(表1)。

以上のことから、瀬戸漁港では過去5年間でアメンボが滑走したのはたった8例だけのまれな記録となった。出現時節としては、冬期と盛夏以外に海面を滑走し、春から初夏(3-6月)にかけてのことが多いが、稀に秋(10月)にも出現する。なお、複数個体が滑走していた場合でも、淡水でよく見かけられるような1個体が別個体の上に乗っている状態のものは見られなかった。

引用文献

久保田 信. 2000, 海面を滑走する淡水性アメンボ. くろしお, (19): 31-32.

久保田 信. 2001, 海面を滑走する1対の淡水性アメンボ(半翅目, アメンボ科)の追加記録.

くろしお, (20): 21-22.

(くぼた しん 西牟婁郡白浜町臨海459)